

## 要 望 書

私の弟、ゴビンダ・プラサド・マイナリは、現在日本の拘置所に収容され、最高裁の判決を待っています。私の弟に対して不当に被せられた罪状について、意見、あるいは見解をここに申し述べるものです。

(1) 大家族制の中の年長の息子として、私には、ここネパールに住む家族の面倒をみる責任があります。日本へ旅立つ弟に対しても、私は家計や社会的な側面などに関わる家族の問題について、細かく指示を与えてきました。

小家族化、核家族化された先進諸国とは違い、ネパールではずっと昔から、3世代、4世代が共に一つ家で助け合って暮らす大家族制が守られてきました。したがって、収入が無くなることや、家族の誰かが欠けることは、すべての家族に影響を与えます。ですから、兄である私を含め、家族の中の誰も、ゴビンダに大金を送るように頼んだりすることはありませんでした。私たちには、ゴビンダがどれほど送金できるか、わかっていました。無理に頼んでもゴビンダにはそんなに送金できません。彼の送れる限度額はわかっていました。私たちはゴビンダが日本での生活を維持するために、どれほどお金がかかるかも理解していました。ですから、ゴビンダが金に困って犯罪に手を染めるなどと言うことは、到底考えられないことです。

(2) ネパールでは、個人住宅は通常どのようにして建てられるか？

ネパールでの家屋の建設は、日本や他の先進諸国とはやり方がかなり異なります。通常、建て主は、建築におよそどれほどの金額が必要かをまず概算します。建て主が必要な建築費用の全額を持っているとは限りません。建築を開始してから建築費が足りない場合は、もっと稼ぐか、あるいは金融機関からローンを受けます。

(3) ネパールでは、建築費はどのように支払われるか？

通常、個人の家はほとんどの場合、石工や建築労働者によって建てられます。一番年長で経験の豊富な石工が建築労働者の賃金や壁のサイズ、コンクリートのスラブなどから費用を計上し、仕事の受注契約を結びます。セメント、煉瓦、砂など、建築に必要な資材は、建て主自身が用意します。ゴビンダの住宅も、こういうやり方で建てられました。つまり私が建築資材を用意し、壁のサイズや、スラブごとに金額を決め、そのつど建

築業者を選び、建てられたのです。ですから、一度にまとまった金を必要とすることはなかったのです。

#### (4) カトマンズに見られる未完成の家屋

ネパールに来て、カトマンズを訪問したことのある人なら、あちこちにまだ鉄筋が屋上に立ち並んでいる未完成の家屋をごらんになったことがあると思います。これは、家の持ち主が、お金がたまったら上階を、そしてさらにまたその上階を建てようと、家を完成させずにおいてあるのです。家を建て始めたからといって、すぐに完成させなくてはいけないというようには、考えないのです。問題になっているゴビンダの家も、同様です。

(5) 1997年の3月、ゴビンダが逮捕され、殺人と強盗の嫌疑をかけられた時、彼の家はすでに仕上がり段階に入っていました。完成するまであと10%ほど残すのみとなっていたのです。ゴビンダは逮捕された時、あと7ヶ月でネパールに帰国する予定になっていました。秋に行われる、ダサインあるいはドゥルガー・プージャと呼ばれるヒンドゥーの大きな祭のために帰国することにしていたのです。帰国までにはまだ7ヶ月もあり、その間に彼は、家を完成させ、家族に土産を買うために必要なお金を充分稼ぐことができたのです。

(6) 検察がいうように、ゴビンダは当時、それほどわずかなお金を必要としていたのでしょうか？ゴビンダは逮捕されるまでに、すでに300万ルピー（約37,000ドル）を稼いでいました。働いてそれほどの額を稼いでいた人間が、たった二、三百ドルのために、死刑あるいは終身刑になるかもしれない、殺人という重罪を異国の地で犯すのでしょうか？

私たちの家族は、ネパールの経済水準に照らして、けして貧しくはなく、かなり余裕のあるほうです。家族、兄弟はみな各自がカトマンズかイラムに自分の家を持っています。

ゴビンダの兄である私は、ネパールで一番大きな観光会社Yeti Travels Pvt.で常勤しています。なにか急にお金が必要なことがあれば、家族の誰でもがお金をゴビンダに貸すことが出来ました。ゴビンダも、もちろんそれは充分わかっていました。彼は、必要なら、家族や友人たちから、数百ドルくらいのお金はいつでも借りられることをよく知っていました。ですから、日本の検察官が法廷で主張したように、わずかの金銭のためにゴビンダが殺人を犯したという話は、私から見ればまったく虚構であり空想にすぎません。私たちの家族の中には、過去にいかなる犯罪歴をもつものもありません。

弟のゴビンダが、労働によってお金を得て、ネパールの故郷に戻れば、まともな生活を送ることのできるほど収入を得た日本で、そんな重罪を犯すことは絶対にないと強く信じ

ています。

従って私は、この事件を細部にわたって調べ直し、根拠のない嫌疑を綿密に検証し、罪のない者がこれ以上苦しむことのないように、願います次第です。

最後には真実とヒューマニズムが勝利すると信じています。

インドラ・プラサド・マイナリ  
(ゴビンダ・プラサド・マイナリの兄)  
カトマンズー ミンバワン  
ネパール  
(現在東京に滞在中)